



▲生産者の大切な籾を最新機械を駆使して保管

産地の強化や組合員の労力軽減などを図り、安定的な管内農業の実現に向けて建設された当JA初のカントリーエレベーターが、9月19日から米の荷受け作業を開始しました。

生産者が直接搬入した籾のほか、各地区の中継基地から籾が運びこまれ、乾燥調製された後サイロに保管されていきました。利用した生産者からは「搬入の手続きも簡単で早いです。他の作業に専念できて助かります。」と喜びの声が聞かれました。

新たな水田農業の拠点を目指し

カントリーエレベーターが本格稼働



▲参加者全員で全量集荷の達成を誓い合う

出来秋を間近に控え、平成24年産米の出荷・検査体制などを話し合う、あきた白神受験組合長会が9月14日に開催されました。

はじめに袴田組合長が「今年はお天候も良く豊作が期待できるので、JAでは米卸業者への直接販売を積極的に行い、より高い値段で米を販売して、組合員に利益を還元していきたい。」と挨拶。その後、今年秋から稼働するカントリーエレベーターを利用した販売戦略なども説明されました。

平成24年産米の全量集荷を目指す

あきた白神米の販売力強化を図る



▲東北電力との災害協定を締結する袴田組合長

JAと東北電力は9月7日、昨年3月11日の東日本大震災の教訓を踏まえ、災害発生時の燃料供給への協力などに関する協定を締結しました。

協定内容は、地震などで停電が発生して、東北電力から応急電源車向けの燃料要請があった場合、JAが燃料供給体制の確保に努めていくというものです。締結に際して袴田組合長は「地域住民の生活を守るため、JAは協力を惜しまない。」と力強く話しました。

災害時における軽油確保に向け

東北電力とJAが災害協定を締結



▲歌に合わせて柔軟体操を行う笑顔の参加者

JA助けあい組織やすらぎ会は9月14日、地域住民とのふれあいなどを目的に、藤里町米田交流会館でミニデイサービスを開催しました。

この日は地域住民32名が参加。レクリエーション指導員の小栗将子さんを講師に、歌を交えた健康体操などを行って、楽しく心身をリフレッシュしました。その後は地元女性部が持ち寄った料理を食べながら、互いに交流を深め合う時間となりました。

楽しいレクリエーションで

心も身体もリフレッシュ!

